鹿野町地域未来プラン

～安心して心豊かに住み続けることができる鹿野町、
人が訪れてみたくなる鹿野町を目指して～

四季薫るまち鹿野

令和7年4月

鳥取市鹿野町総合支所

目次

1. プランの策定趣旨 ―――― P2

2. 地域の現況 ―――― P2

（１）位置・地勢・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P2

（２）歴史・資源・人財・・・・・・・・・・・・・・・・・P3

3. 現状と課題、優先的に取り組む事項 ―――― P5

（１）安心して暮らし続けることのできる地域の維持・・P5
➡優先的に取り組む事項

（２）地場産業の活性化と雇用の確保・・・・・・・・・P9
➡優先的に取り組む事項

（３）魅力ある地域づくり・人づくりの推進・・・・・・P10
➡優先的に取り組む事項

（４）交流による活性化と移住定住の推進・・・・・・・P11
➡優先的に取り組む事項

4. めざす将来像 ―――― P13

1. プランの策定趣旨

平成16年11月1日、鳥取市に周辺8町村が編入合併し新たな鳥取市が生まれました。合併地域には「地域審議会」やその後の会議体である「地域振興会議」を設置し、「新市まちづくり計画」や「新市域振興ビジョン」を基に、本市の一体的な発展や、それぞれの地域特有の地域振興・まちづくりについて検討してきました。

新市域振興ビジョン推進期間が令和 5 年度末で終了したことに伴い、新市域振興ビジョンに掲げて取り組んでいる事業を鳥取市中山間地域対策強化方針に引き継ぐとともに、現在直面している鹿野町特有の課題に対し、令和7年度から5年間の施策の方向性と具体的な取り組みを明らかにするために、本プランを作成するものです。

2. 地域の現況

(1) 位置・地勢

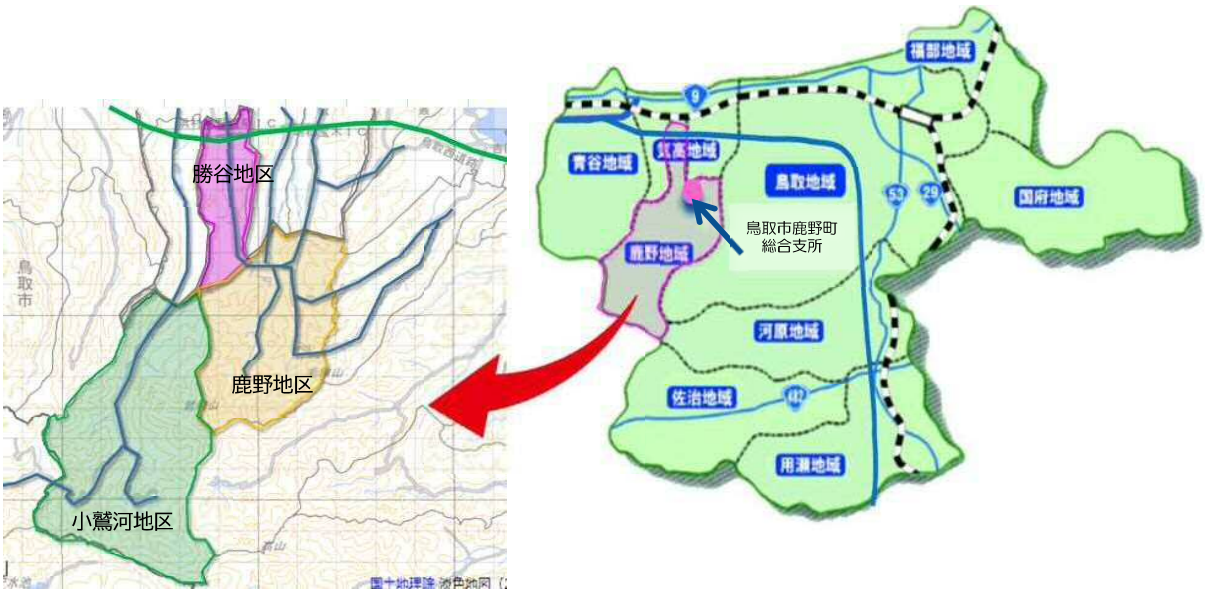
鹿野町は、鳥取市の西部、因幡の霊峰・鷲峰山(標高921メートル)の麓に位置し、地域内を流れる河内川、水谷川、末用川沿いの河岸段丘や扇状地などに集落が形成されています。

面積は52.77㎢で鳥取市全体の6.9%(人口は3.3千人(R6.3 末現在)で1.8%)にあたります。標高別にみると、標高200m 以上の山地が60%を占め、100m以下の低地は20%に満たない、中山間地です。

土地利用は山林原野が80%(うち人工林60%)を占め、田畑などの耕地が10%、道路・宅地などが10%となっています。

町内各地区別の土地利用は次のとおりです。

- 鹿野地区　面積34%、人口42%　旧城下町を中心に集落が形成されています。
- 勝谷地区　面積11%、人口47%　耕地が30%を占めていますが、南部の温泉地では宅地開発が断続的に進行し、北部では山陰自動車道開通により商業施設が進出しています。
- 小鷲河地区　面積55%、人口11%　山林原野が95%を占めています。



（2） 歴史・資源・人財

● 歴 史

中世における鹿野町は、因幡地方の軍事・交通上の重要拠点として隣国但馬（山名氏）、出雲（尼子氏）、安芸方面（毛利氏）からの侵入、さらに豊臣秀吉軍の侵入など争奪攻防の的となりましたが、天正9年（1581年）鹿野城主・亀井茲矩（かめいこれのり）の登場により平静を得て、その後は城下町、近隣の物産集積地として繁栄しました。元和3年（1617年）、茲矩の二男・亀井政矩（かめいまさのり）が津和野に移封（国替え）、また、寛永5年（1628年）の鹿野城焼失以降、次第に寂れていきましたが、その後も引き続き、近隣の物産集積地となっていました。

明治10年に西志加如と東志加如が合併し鹿野村が成立し、明治32年に町制施行。昭和30年には、鹿野町、勝谷村、小鷲河村の1町2か村が合併して「鹿野町」が誕生し、平成16年11 月1日に鳥取市と合併しました。

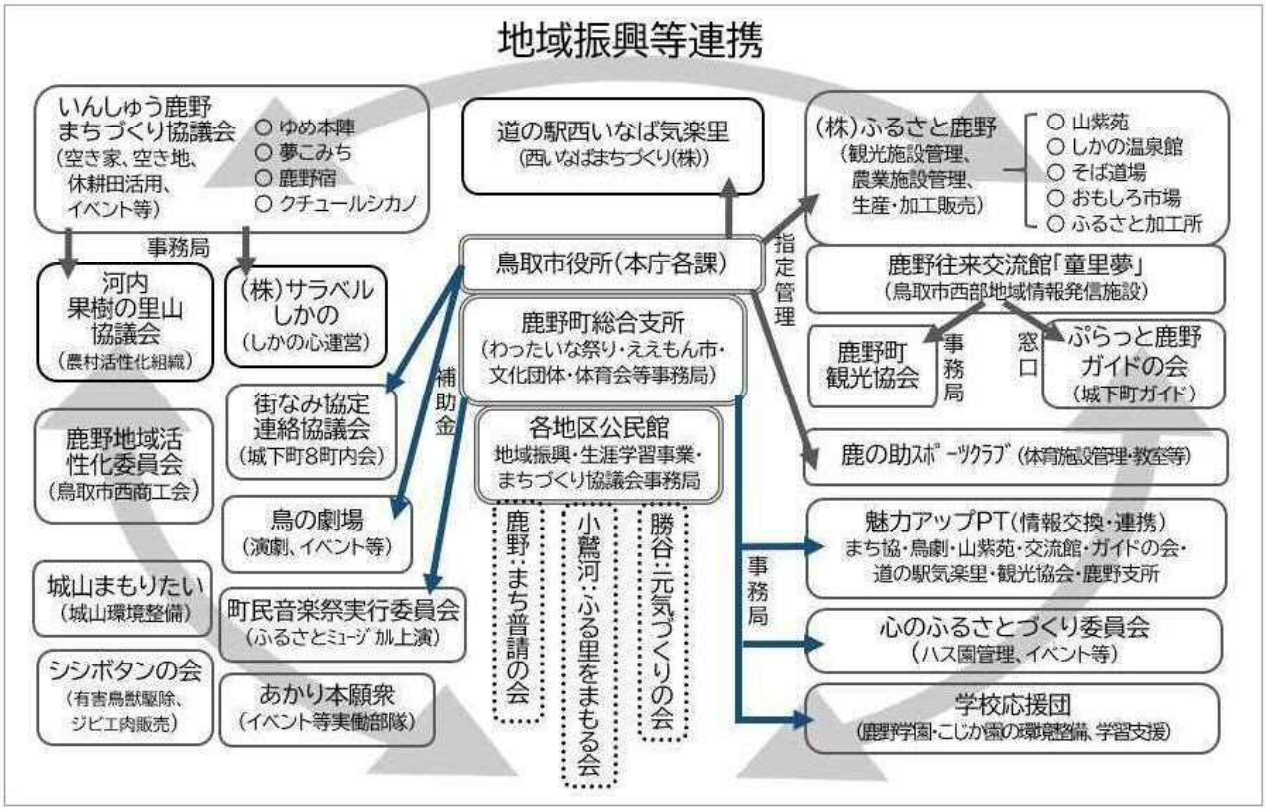
● 資 源

区 分	主なもの
特産品	鹿野そば、そばアイス、鹿野地鶏、鹿野すげ笠、すげコースター、因州しし肉、そば菓子、イタリアンジェラート、生姜加工品、クラフトビール、藍染製品、温泉いちご、イチジク、ウマモナド
観 光	鹿野城跡公園、城下町街なみ、鹿野温泉（国民保養温泉地）、鷲峰山、鹿野往来交流館「童里夢」、道の駅西いなば気楽里、鹿野ゆめ本陣、夢こみち、法師ケ滝、西日本最大級のハス園、もうけ神社、鷲峯神社（こま犬）、譲傳寺（亀井茲矩公菩提寺）、雲龍寺（紅葉）、幸盛寺（山中鹿介の墓、大銀杏）、加知彌神社（登録有形文化財）、鹿野そば道場、国民宿舎山紫苑、温泉館ホットピア鹿野、鹿野おもしろ市場、クチュールシカノ、いちご狩り
文 化	鹿野祭り（城山神社祭礼）、鳥の劇場、鳥の演劇祭、鹿野ふるさとミュージカル、亀井太鼓、亀井踊り、鹿野学園（王舎城学舎、流沙川学舎）、ジュニア川柳、わったいな祭り（文化団体協議会発表）、鹿野芸術祭
イベント	鹿野桜まつり、わったいな祭（ええもん市、週末だけのまちのみせ）、城下町しかのぶらり蓮ウォーク、虚無僧行脚、鹿野芸術祭、まちづくり合宿、鷲峯山麓ハーフマラソン、土曜夜市、果樹の里山まつり
医療・福祉	鹿野温泉病院、乾医院、稲垣歯科医院、鳥取市社会福祉協議会、ル・サンテリオン鹿野、鹿野かちみ園、鹿野第二かちみ園、すずかけ、わかばの家勝谷

鹿野城跡公園

鹿野すげ笠

● 人 財



道の駅 西いなば気楽里

鹿野往来交流館 童里夢

国民宿舎 山紫苑

鹿野 はす園

3. 現状と課題、優先的に取り組む事項

(1) 安心して暮らし続けることのできる地域の維持

鳥取市の人口は、少子化や生産年齢人口の流出超過などから、平成17年をピークに減少傾向となっています。年齢階層別人口では、少子化・高齢化が一層進行しており、人口構成に占める働く世代の割合が減少してきています。

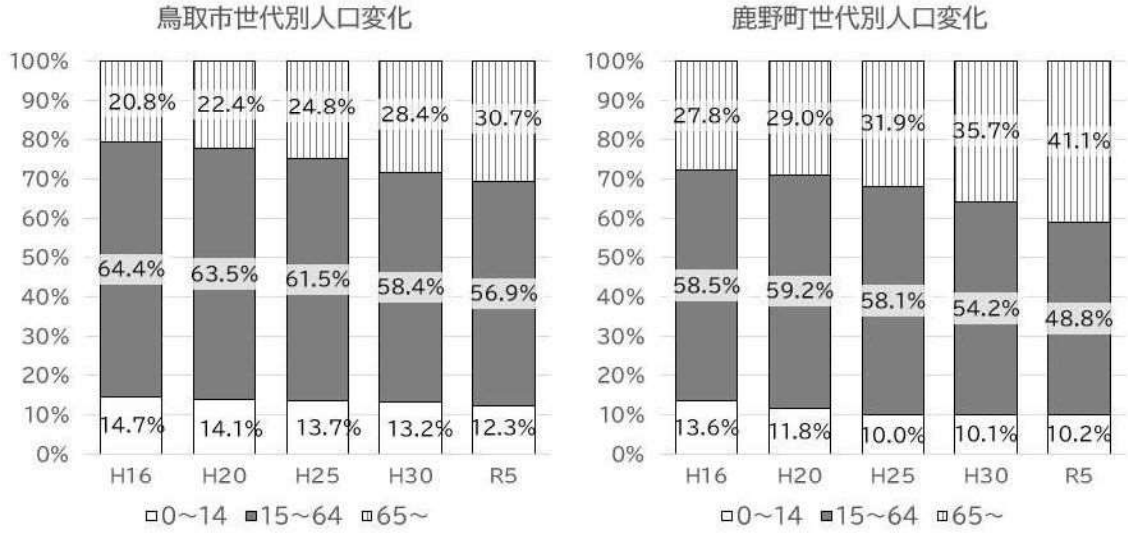
新市域においては、これらの推移が顕著に表れており、集落機能の低下、空き家や耕作放棄地の増加など、地域そのものの活力が失われつつあります。

鳥取市と鹿野町の合併後人口推移(※住民基本台帳による)　　(単位:人)

年度	H16	H20	H25	H30	R5	増減率
鳥取市	200,532	197,216	193,894	188,286	181,203	△ 9.6%
鹿野町	4,385	4,322	4,049	3,641	3,364	△ 23.3%

H16 と R5 を比較すると鹿野町の人口は20年で約 1/4 減少した

鳥取市と鹿野町の世代別人口変化 (※住民基本台帳に基づき人口集計)



≪年少人口(0歳から14歳) 生産年齢人口(15歳から64歳) 老年人口(65歳以上)≫

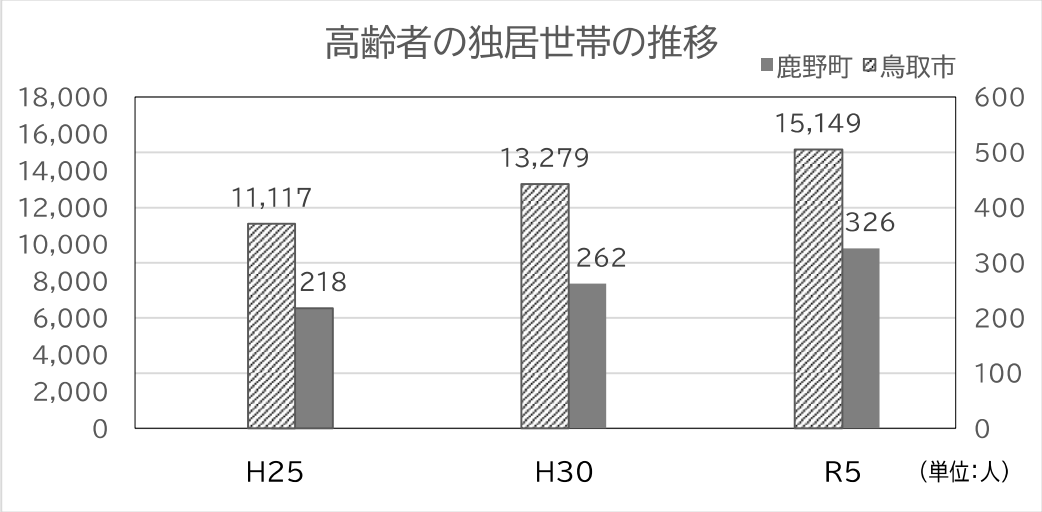
上記のグラフに見るように、年々老年人口の割合が増加し、生産年齢人口と年少人口は減少しています。また、高齢化率の上昇とともに、高齢者独居世帯も増加しており、家族による支援が困難な状況にコロナ禍による生活様式の変化も加わって、これまで築かれてきた地域の繋がりが薄れつつあります。

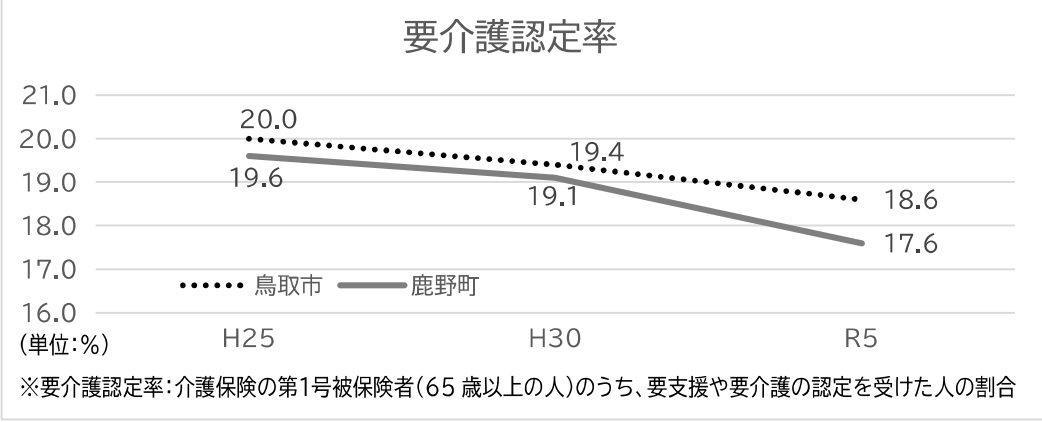
そのような中でも住みなれた地域で自分らしく暮らしていけるように、健康で自立した生活を送ることができる「健康寿命」を延ばしていくことが重要です。そういった意識の高まりか、ここ 10 年の要介護認定率は減少傾向にあり、鳥取市全体と比較しても鹿野町は低い傾向にあります。高齢者の健康づくりに向けて、認知症予防の「にこにこ教室」や健康増進のための

「しゃんしゃん体操教室」などさまざまな取組みをおこなっていますが、どの事業も会場までの送迎がないため、自分で通うことが難しいといった声もあり、参加者数が伸び悩んでいるのが現状です。

包括支援センター、総合福祉センター、民生委員といった関係機関等と引き続き連携を図りながら、健康維持、改善に向けた地域での取組が課題となっています。

※下図は、長寿社会課の「日常生活圏域別高齢者等情報」による参考数値（2表とも）





※要介護認定率：介護保険の第1号被保険者（65 歳以上の人）のうち、要支援や要介護の認定を受けた人の割合

近年の気候変動に伴い、日本各地で災害が激甚化・頻発化しています。

鳥取市においても令和５年８月の台風７号では、大雨特別警報に加え「警戒レベル5 緊急安全確保」が発令され、佐治町を中心に大きな被害をもたらしました。

鹿野町においても河内川の護岸浸食や法面崩壊などの爪痕を残したほか、水道水が濁り給水車が出動するなど、住民生活に大きな影響がありました。

土砂災害警戒区域指定個所数（鹿野町）

土砂災害の種類	指定個所数	うちレッドエリア有の区域
土石流危険区域	43カ所	27カ所
急傾斜地崩壊危険区域	83カ所	83カ所
合計	126カ所	110カ所

鳥取市消防団鹿野地区団の団員数

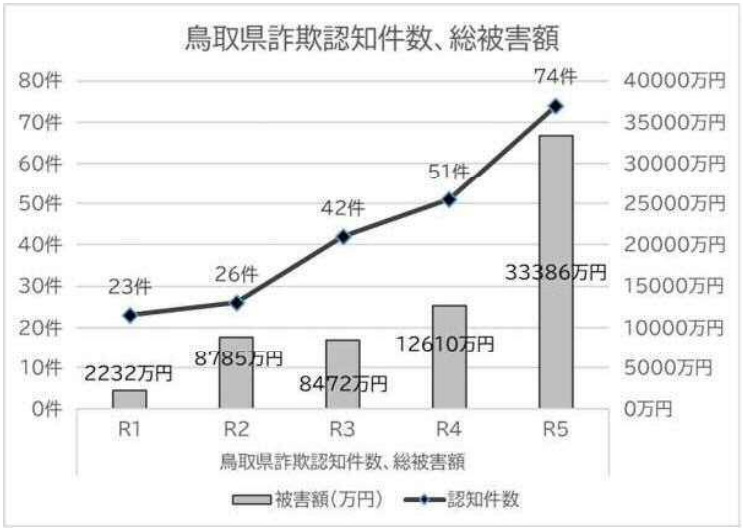
分団名	定員	所属団員数
本部員（正副地区団長）	2人	2人
第1分団	20人	15人
第2分団	20人	17人
第3分団	20人	19人
合計	62人	53人

鹿野町内には多くの土砂災害警戒区域があります。災害に備え、地域防災の中核をなす消防団員の確保に努めるとともに、防災拠点施設としての支所の機能強化、消防格納庫の整備とその運用体制を整えることが課題となっています。

防犯面においては、全国的に巧妙な手口で金品をだまし取る特殊詐欺が、認知件数・被害額とも増加しています。令和5年度認知件数のうち高齢者（65 歳以上）の被害は 78.4%（法人被害を除く）にのぼっており、鳥取県下においても被害が急激に増加しています。

これは、高齢者が最新の情報や ITリテラシーの面で遅れを取りがちなこと、気軽に相談する人が身近にいないことが詐欺師のターゲットになりやすい要因のひとつと言われています。

出典：公益社団法人鳥取県防犯連合会



認知症などで介護が必要な高齢者や一人暮らしの高齢者なども注意が必要であり、自助・互助・共助により支えられている地域福祉や防災・防犯対策はコミュニティ組織の弱体化に伴いその機能が弱まることが懸念されます。

地域生活の移動手段として重要な役割を担ってきた公共交通（民営バス・タクシー）ですが、自家用車の普及により利用者が減少し、赤字路線を廃止せざるを得ないなど、交通事業者の運営継続が難しくなっています。また、ドライバーの高齢化、労働条件の厳しさ、長時間労働、および免許制度の変更等により、全国的にバス・タクシーの運転手が不足しています。鳥取市においても、民間バス路線の縮小やタクシー事業者の撤退が進み、日常生活において交通弱者の移動手段が不安視されるようになりました。

現在、鹿野町では路線バス（日ノ丸バス）白兎海岸線が、平日上り11便　下り12便運行していますが、乗車人数も少なく、近い将来撤退の可能性が高まっています。また、これまでに路線バスが廃止になった路線を、市の乗合交通「気高循環バス」が逢坂線、瑞穂宝木線、宝木河内線、船磯線の4路線運行していますが、鳥取市生活交通会議で定めている、「生活交通」の評価・見直し基準（資料 1）を満たしておらず、早急に利用者増加のための検討が必要な状況です。

日ノ丸バスの運行ルート

「生活交通」の評価・見直し基準（資料１）

下の基準を2つとも満たさない場合に検証や見直しが行われます。

基　準	１便当たりの利用者数	利用者１人当たりの市の補助金額
数値設定	2.0 人以上	1，000円未満
対象路線	・鳥取市気高循環バス（気高町、鹿野町） ・鳥取市絹見バス（青谷町、気高町） ・鳥取市南部支線バス（河原町、用瀬町、佐治町） ・西郷線（河原町）	

令和5年度気高循環バスの状況	全体	瑞穂宝木線	船磯線	逢坂線	宝木河内線
１便当たり乗車数	1.92 人	1.40 人	1.93 人	1.66 人	2.57 人
一人当たり補助金	2，112円	2，198円	1,552 円	3,363 円	1，558 円

生活交通の新たな手段として、令和４年10月から令和5年9月末までの1年間、運転免許を持たない人や高齢者が毎月定額で、そしてドアツードアで出かけることができる「乗合交通」の実証実験が、鹿野町と気高町をエリアとして行われました。事前アンケートでは利用希望が高かったものの、乗車の１時間前までに電話で申し込む必要があること、利用可能な曜日や時間帯に制限があること、運行エリアが狭いこと、料金が高いと感じられたことなどにより、定着には至りませんでした。

しかし、一部の利用者からは「大変助かった」という声もあるほか、現時点では車の運転ができる人や、家族・知人に送ってもらうことができる人からも、数年後への不安を感じているという意見が多くあり、将来に向けた検討を進める必要があります。

≪優先的に取り組む事項≫　（住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる環境づくり）

① 健康づくり・地域共生社会の推進

- 介護予防の普及啓発　・検診受診率の向上

② 交通の確保・情報伝達体制の強化

- 「鳥取市気高町・鹿野町地域生活交通協議会」での「気高循環バス」の利用率向上に向けた検討
- ドアツードアをニーズとする交通弱者の増加がみられることから、地域の実情に合った利便性の高い生活交通の確保について地域とともに検討し、買い物弱者や見守り福祉などの課題と合わせ、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる環境づくりを推進

③ 防災・防犯の取組みの推進

- 鹿野町総合支所の庁舎耐震・設備改修による防災拠点としての機能強化
- 待機場所を備えた消防格納庫の整備と、消防団員の確保による防災・災害時対応の強化
- 特殊詐欺に関する情報の周知、警察署や消費生活センターとの情報共有と連携

④ 買い物弱者対策・地域商業の創出

- 移動販売による買い物支援　・生活交通の確保（再）

⑤ 持続可能な地域形成の推進

- 集落活動支援補助　・地区要望等への対応

（2） 地場産業の活性化と雇用の確保

鹿野地域の地場産業は、労働者人口の減少により衰退が深刻化しています。基幹産業である農業では、農業者の高齢化や後継者不足、有害鳥獣被害などにより耕作放棄地が拡大しており、生産及び農地を維持する担い手の育成や、耕作放棄地の再利用・有効活用が大きな課題となっています。

また、農地等の保全・維持とともに、地域の特色を活かした農産物及び加工品のブランド化や、新たな企業等の誘致による農業参入など、持続可能な農業のかたちを創出し、地域の特色や地域資源を活かした地場産業の活性化と雇用の確保に向けた取組みが必要となっています。

≪優先的に取り組む事項≫

（地域の特色を活かした産業振興・農地保全及び雇用の創出）

① 6次産業化・農商工連携の推進

- 鹿野そばや鹿野地鶏などの特産品と飲食店等とのマッチング、新たな加工品や新メニューの開発等による知名度向上及び消費拡大につながる取組みへの支援
- 飲食店やクラフトビール醸造所等との農商工連携または6次産業化による高付加価値化に向けた取組みの推進
- 因州しし肉（イノシシ）やシカ肉などのジビエの販路開拓及び消費拡大の推進

② 担い手の確保・育成と農林水産物、農林水産加工品等の販路拡大

- 鹿野そば、生姜、鹿野地鶏など地域の特色ある農畜産物の生産拡大の取組みへの支援
- 鹿野ええもん市などのイベント開催による地域特産品の消費拡大及び販路拡大の支援
- ㈱ふるさと鹿野及び鳥取西いなばまちづくり会社等の地域連携を活かした活動を支援
- 青谷高等学校の地域学習に対する支援

③ 農地等の保全・維持

- 本市農作業受託等法人である㈱ふるさと鹿野などの農業生産法人による耕作地拡大や、企業営農の新規参入に対する支援
- 日本型直接支払交付金制度を活用した地域住民による農業・農村の保全活動及び耕作放棄地解消への支援

- 狩猟者の育成等による有害鳥獣捕獲の推進及び侵入防止柵設置等被害対策の推進
- 農業者と狩猟者との連携、耕作放棄地の所有者と利用者とのマッチングなどの支援

④ 地域の再生可能エネルギー源の有効活用

- 「温泉いちご」などの鹿野温泉熱を活用した次世代型施設園芸等、新たな産業への支援

⑤ ソーシャル・コミュニティビジネス等の支援・促進

- いんしゅう鹿野まちづくり協議会による「果樹の里山プロジェクト」など、地域課題を社会貢献につなげる事業等に対する支援

（3）魅力ある地域づくり・人づくりの推進

鹿野町は、「町民憩いの場整備事業」として平成4年度から平成7年度にかけて鹿野城跡公園の修景整備を行い、平成6年度からは「鹿野祭りが似合う街なみづくり」をテーマに、城下町の町内会で街なみ整備事業に着手しました。この事業による道路・水路などの公的空間の整備は平成16年度で一旦終了しましたが、劣化した舗装などの更新と家屋など私的空間の修景整備補助事業は現在も継続して取り組んでいます。

文化芸術の面では、「鹿野町民音楽祭」、「鳥の演劇祭」などで、子どもから高齢者まで幅広い世代が交流しながら活発に活動しています。近年は、ゲストハウスに滞在する芸術家や、訪町する若者との交流によるアートを通じたまちづくり活動など、文化・芸術のまちとしての知名度が高まっています。

さらに、令和5年度から令和7年度にかけて、旧鹿野小学校跡地を『「出会い・集い・学び・つながる」をテーマに文化・芸術を核とした地域の拠り処』として再整備を進めており、並行して鳥の劇場と連携したソフト事業「舞台芸術を核とした人づくり」、「舞台芸術を核とした賑わいづくり」が進行しています。しかし、旧来からの伝統工芸や伝統文化においては「鹿野すげ笠」、「亀井踊り」などの各団体が伝承に取り組んでいるものの、高齢化や後継者不足が課題となっています。

教育面においては、地域ぐるみで子どもを育てることを目的に、ボランティア団体「しかの学校応援団」を組織し、学校・家庭・地域が一体となって教育を支援しています。また、地域の教材や人材を活用した独自教科「表鷲科（あらわしか）」など特色ある教育を行い、子どもたちが地域を愛し育む教育を推進しています。

これらの事業を始め、まちづくり団体やスポーツ団体が新たな魅力づくりに取り組んでいますが、継続して活動を行うには、多くの人材の参画を促す必要があります。町の活性化を一層進めていくためには、潜在している熱意や技術、発想を持った人の取り込みや、移住者やリピーターにも参画を促すなど、人材の発掘が必要です。

≪優先的に取り組む事項≫

（「個性」「魅力」を活かした地域づくり、人づくりの推進並びに集落の維持・活性化）

① 各地域振興組織の連携による魅力と活力の向上

- わったいな祭、ハスの活用、鳥の演劇祭などの地域イベントや各地区事業などの連携と取組を支援
- NPO団体による体育施設を活用したスポーツ教室の開催及び、実行委員会によるハーフマラソン大会の開催などによる地域の魅力づくりを支援
- 住民団体等による遊休施設（空き店舗等）を活用した取組を支援

② 地域で活躍する人材の育成・発掘

- 鹿野学園の独自教科「表鷲科」や鳥の劇場のワークショップ「小鳥の学校」を支援するとともに、児童・生徒のボランティアへの参加を促し、主体的・協働的な児童・生徒の育成を図る
- 各地区まちづくり協議会や地域で活動する団体と連携して、地域内に潜在する地域活性化に取り組む人材を発掘する
- しかの学校応援団の活動を促進し、地域ぐるみで鹿野学園の教育活動を支援することで、高い志を持ちふるさと愛にあふれる子どもを育むとともに魅力ある地域づくりを推進する

③ 伝統芸能・伝統行事等の維持・承継

- 鹿野町民音楽祭や鳥の演劇祭などの開催継続を支援
- 文化芸術活動の支援、亀井踊り・すげ笠などの伝統工芸や伝統文化の承継と、若いアーティストが活動できる環境の整備
- ジュニア川柳大賞の継続及び句木が立ち並ぶ川柳街道のPRと句木配置等の見直し

（4）交流による活性化と移住定住の推進

鹿野町のシンボルである鹿野城跡公園は、桜の開花時期には多くの観光客が訪れ、桜の名所として定着してきました。また、400年以上の歴史を誇る鹿野祭りはもとより、「鹿野祭りが似合う街なみづくり」を掲げて整備された城下町では、ボランティアガイドの説明を受けながら散策する観光客も一年を通してみられるようになりました。

そのほか、鹿野町観光協会、西部地域の観光情報発信拠点施設「鹿野往来交流館童里夢」、国民宿舎山紫苑、いんしゅう鹿野まちづくり協議会、鳥の劇場など多くの地域事業者が連携して町内各地域でイベントの開催や情報発信を行っています。また、「週末だけのまちのみせ」や「果樹の里山まつり」などのイベントで、県内外の大学生

と一緒に事業を企画・実施したり、町内の資源を活用して企業の若手職員の人材育成研修が行われたりと、関係人口の創出・拡大が図られています。

しかし、人口減少に伴って空き家も増え、街なみの景観が保てない状況も見られるようになりました。NPO 団体を中心に空き家の利活用に取り組み、移住希望者にサブリースで提供する取り組みをしていますが、人に貸すことへの抵抗感や、改修費用がかかるといった理由から空き家の確保が難しく、移住希望者からの借入希望があっても対応できない状況があります。

鹿野町は、山陰自動車道の開通やインターチェンジの開設、NPO 団体を中心とした移住定住の取り組みが実績を残しつつあるなど発展的要素が見込まれ、更なる関係人口・交流人口・定住人口の増加が期待されます。今後この取り組みを発展させるためには、2拠点生活者や家族での長期滞在者が安心して鹿野町で生活できるよう、子どもの保育環境や学校教育環境を整えていく必要があります。また、キャパシティーを超える観光客を想定し、交通渋滞や違法駐車、ごみのポイ捨て対策を充実するなど、地域住民生活と観光との調和を図った取り組みを進めることが必要です。

≪優先的に取り組む事項≫　（定住人口、交流人口の拡大）

① ふるさと・いなか回帰の促進

- 鹿野町への移住・定住を促進し地域の活力を維持するため、空き家の確保・有効活用を図る
- 地域おこし協力隊を任用し、空き家で発生する古材、古民具等を「地域活性化につながる資源」に変えるアップサイクルや、果樹の里山産物の加工・販売ルート構築等を図る

② むら・まち交流とグリーンツーリズム促進

- 鹿野城主 亀井公が津和野へお国替えとなった縁で、昭和60年から続いている島根県津和野町との交流事業を今後も継続し、西地域全体を巻き込んだ交流に発展させる
- 地域資源を活用した企業研修や、鳥の劇場を活用した教育旅行などのツーリズムを支援する

③ 特色ある地域資源・伝統行事等による観光振興

- 城跡公園や城下町、伝統文化など地域の魅力をまちづくり組織と情報共有し、インバウンドも視野を入れつつ連携して国内外に情報発信する
- 桜、ハス、ひまわり、紅葉など、鹿野の四季を彩る植物や、鷲峰山や法師ケ滝等の自然の魅力を間近で感じられる環境を整える

4. めざす将来像

安心して心豊かに住み続けることができる鹿野町、
人が訪れてみたくなる鹿野町の実現

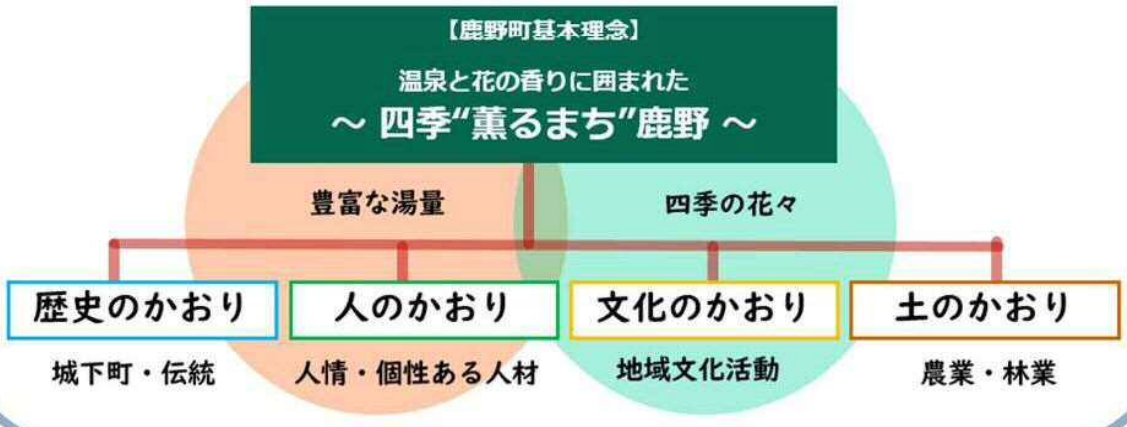
○ 温泉と四季の花を通じて人々がふれあい、歴史・文化・人・土のかおりの中で、やすらぎやゆとりを感じることができる「四季“薫るまち”鹿野」を推進します。

○ 住民が積極的にまちづくり活動に参画する風土をベースとして、住民と行政の良好な信頼関係を大切にし、ともに汗をかく協働のまちづくりを一層推進することで、さらなる地域の活性化につなげ、住民が安心して心豊かに住み続けることができる鹿野町、人が訪れてみたくなる鹿野町をめざします。

○ 住民及び行政がお互いのアイデアを共有し行動につなげることで、鹿野町のブランド力の底上げを図り、元気な鹿野町の実現をめざします。

「四季薫るまち鹿野」は、平成6年に町の将来像を描いた基本理念です。

合併後もこの基本理念を継承し、住民自らが創る「四季薫る心のふるさとづくり」に取り組んでいます。



鹿野町地域未来プラン

令和7年4月発行

発行　鳥取市鹿野町総合支所地域振興課
〒689-0405　鳥取市鹿野町鹿野 1517
電話　　0857-30-8682
FAX　　0857-84-2598
e-mail　sk-chiiki1@city.tottori.lg.jp

表紙デザインは、鹿野町のまちづくりの基本理念
「四季薫るまち鹿野」のイメージロゴです。